

五十餘年前大阪より保育 見習の爲め上京せし思出

氏 原 鋳

明治十一年二月大阪府の命により私と木村未さんの二人、東京女子師範學校附屬幼稚園へ保姆見習の爲め上京する事となり、先づ其旅の事を述べます。其頃は未だ、東海道線の布設が出来て有りませず、鐵道としては東京横濱間と大阪神戸間のみで、其中間は海上で行かねばなりません時代で、先づ梅田驛（今の大阪）から汽車で神戸に出て、海岸通の汽船取扱所なる蓬萊屋に著き、横濱迄乗船の手續きをなし、それから神戸港で郵船會社の西京丸と言ふ大船に乗込むに、和船の少さはしけのグラグラして餘り氣持ちのよくないもので、

本船西京丸に著き、此グラグラのはしげに本船西京丸から鐵の階子ををろされ、之に上る時の心持は下は波立つ海面、一步踏みはづしたら身は危く一生懸命に階子につかまつて、南無阿陀佛を唱へて辛ふじて乗り込みました。今日はどんな大船でも棧橋に横づけされて、何の心配もなく樂に乗船が出来て結構な時代となりました。其船室は下等客の事とて船底、廣々室で、多人數同居で、彼の西南役、翌年、事、白衣、着た病傷兵が多數乗へて居りました。船が出帆しました。波路穩やかに紀州沖にかゝりました時、左方那智山腹より長

く白布をかけたものが見ゆ、之れが有名な那智の大瀑布で、夕陽に映じて美しく、遠州灘を過ぎ翌日午後伊豆沖にかゝりし時、左方富岳を見、右方遙に大島噴火山の煙を見る。夜に入り横濱港に着、蓬萊屋に休息。翌日横濱驛より汽車で東京に向ふ。此鐵道の品川驛より新橋驛に至る（今汐留驛）間の線路は今日と趣きが少しく變つて居ります夫れは品川驛より新橋驛（今の汐留驛）開通に至る間は其鐵道は海に沿ふたもので、車窓より東京灣の景を眺め、心も晴々したものなりしが、今は芝浦の海面、十萬坪の埋立地が出来其處には汽車運輸の發展により、廣き操車場となり其他諸種の工業場の立ち並びて、海面の風光は見られぬ様になりました。新橋驛（今の汐留）に着きました、當時は乗降口共に一方で、現今の東京驛に比すべくもなき實に小規模のものなりし。夫れより東京女子師範學校附屬幼稚園主事關信三先生の、御徒

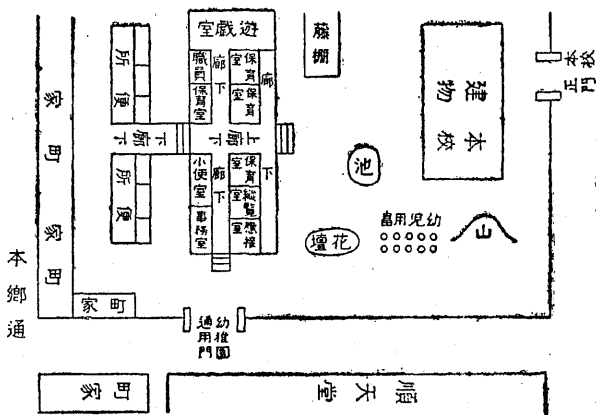
町の邸に行き、大阪府學務課長の添書を差出して來意を告げ、翌日より茶の水幼稚園に入學すべく思ひしに、其運びが出来ません、之れは本校より大阪府に係見習生を置くと回答したるも、斯様に早く私共の上京せぬものとし、其保姆見習生に關する規則時間割等が未だ出来てなく、之れの準備を整へ數日の後に出頭せよとの通知を受けました。之れは大阪府が、幼兒保育の必要を感じ、一日も早く開園せんものと本校よりの回答に接し直ちに、私共兩人を急に上京せしめたもので、早手廻はしの失敗なりし。併し此早手廻しが他府縣に卒先して、大阪府の第一番に開園出来たものなり。さて此保姆見習傳習濟みの期間は、六ヶ月と言ふ事なりしにより、大阪府は其積りて私共を留學させましたに、到底六ヶ月ではものにならぬとて、十ヶ月となされました。之れも最初の事として、見當が付かなかつたものならん。入學に付て

は、極簡易な試験により入學許可の指令を受けました。(今日ならばとても及第は出来る身では有りません) 入學後は實地保育、宮内省伶人先生の唱歌、松野クララ先生の保育法、豊田英雄先生の幼稚園記並に保育法、近藤濱先生の手技製作等で、中で一番休みが多くて進まぬのは、クララ先生の保育の講義で、之れは通譯付き講義で此通譯には關監督が擔當せらるゝのですが、此講義の當日、クララ先生が出勤せられても、關先生出勤の時は講義は出来ませず、又關先生が出勤せられても、クララ先生の出勤の日は休みとなるもので、此兩先生の出勤が揃ふ事が無く、一週中一回もない時があつて、留學生の身として一番閉口いたしました。二ヶ月か一ヶ月に相當する様なもので有りました。今日お茶の水幼稚園に勉強せらるゝ、保育實習生諸氏は、其講師諸先生の御健康で休講の迷惑なく、進まるゝ事は實に幸福な事で、昔時の不

備時代を顧みて感慨無量の感あり。

お茶の水幼稚園建物及び庭園に付ては、前年其

お茶の水川



略圖を本誌に

掲載されましたが、今序ながら其概要を述べます、建物は床高平屋の西洋造りて其地下の中央に大暖爐を設け之れより建物全部に鐵管より火氣を送る装置で、之れは幼児に危険のない暖氣の取り方でありましたのに、其構造に工合あしき點ありて、思ふ様に火力

が通ぜず、此折角の注意案も用を爲さざりし事となりし。残念の極みなりし。其園舎は、遊戯室、保育室、縦覧室、應接室、職員室、事務室、小使室、兼附添人、控室等で、此建物は、明治九年十一月落成、同十七年九月に大風雨の爲めに大損害を與へられて、入口は正反對、其他の模様もすつかり變つた再築園舎が出来ましたもので、本圖は明治九年より同十七年に至る間の初回のものなり、(現在のものは大正十二年震災後の第三回建物なるは御承知の通り) 其庭に面する建物に添ふて廣き廊下あり、其庭園は、泉水、築山、花壇、藤棚、幼兒一人用の畠等あり、尙廣き芝生あり、當時は本校用の建物の少ない時代で、廣々した空地ありて遊園が十分ありました。職員は、監事關信三氏、首席保姆松野クララ氏、保姆豊田英雄氏、同近藤濱氏、手傳山田某、同大塚某、事務員二人小使男一人女二人、尙英語練習の爲め、クララ氏

に附隨して保育を手傳はれる中村攝理の令嬢高子さんあり、其當時幼兒の服装は和服で中に西郷從理さん黒川幹太郎さんなどが、洋服を着て居られました。女兒には全く洋服者はありませんでした。又保姆は、松野クララ氏の外は皆和服でした。袴をはいて、頭髮は丸まげいてう返へし等でした。

當時の唱歌は雅樂の旋律によるもので、其調子は長く優美で其歌詞は雅言多く、其意味の幼兒に解し兼るものありしが、幼兒は其旋律の雅趣ある快感によく唱ひ樂しめり。之れは恰も今日唱歌を伴はざる奏樂又はマーチを聽き快感を得るもの、如し、其樂器は、雅樂用の六絃琴で、其音響は實に微なるもので、大勢の幼兒に對し例へ二面を彈ずるも其興味を惹起するに乏しく、唯バチバチと拍つ笏拍子により、其基礎をなすもて、如し。右の彈琴も其唱歌により其調子を立て直ほす手數あ

る爲めに、常用はなされず、其不便なる、今日オルガンの比に非ず。當時西洋樂器としては、本校幼稚園を通じて唯一のピアノの一臺が幼稚園遊戯室にあるのみ、此彈奏は松野クララ先生が、一週中二回朝の會集の時ひかれるもので、他の日本人保姆は之れを彈ずる術を知らず、夫れ故に一週二回の松野先生の洋琴合唱を、幼兒を初めとし私共も大に樂みになす事なりし。依て、保育上遊戯其他の唱歌には、樂器によらずしてなされし。之れは今日の如く我國で樂器の製造出來ず、舶來に待つ時代で、購入高價なるによるものと其彈く術を我國人の知らざりしによるものなり。尙保姆諸氏初め私共等の宮内省附きの伶人先生に唱歌を教へらるゝ時も、笏拍子により其發音を調子笛に取り口移しに習ひました。夫れで私共の幼兒に對する唱歌も手拍子で口移しに唱歌を謠はし幼兒も同じく手拍子で唱歌を致しました。手技中の豆細工に付き

一言致し度事は、此手技は獨乙傳來では大豆に細く削りし木箸の兩端を其製作に當り小刀を以て削りて尖らし之れを大豆の小錐で孔をあけたものにさして作る實に手數で、最小の幼兒は申迄もなく最長の幼兒でも製作上容易ならざりしものを、當時の保姆近藤濱先生が、大豆の細長き體面に代るに豌豆の丸くして四方よりさし易く且其細木を削りて爲しにくきものに代るに、提灯屋で竹の屑を求めて、自由に豆に接合し、最小幼兒にも實に容易に製作し得るものとせられたる先生の此發明を大に感謝すべきものなり。幼稚園の事は此位にして置いて、序に本校の事を記ります。此東京女子師範學校（今の女子高等師範）は明治八年十一月 昭憲皇后陛下御臨幸開校式を舉げられ、教育獎勵の思召なる左の御製を下賜せらる。

みがかずば玉も鏡もなにかせん

學びの道もかくこそありけれ

(此御製は大正十二年震災迄は別室に奉揚してありましたが現在は如何なりしや)

其職員は、攝理中村正直氏、幹事永井久一郎氏、幹事田中直吉氏、教師柴田某氏、同關信三氏、教師大村斐夫氏、同茂木喜太氏、同淺岡一氏、教師宮川保全氏、同村岡爲範馳氏、同北條直氏(以上男職員)、教師松本荻江氏、同竹村千佐氏、同棚橋綾氏、同近藤スワ氏、同福田某氏、舍監藤川某氏、舍監山川二葉氏、此外體操の先生は忘れしました(以上女職員)

此女職員は、幼稚園職員同様に、髪は年長者丸まげ若きはいてふ返へしに結つて、しまの袴をはき生徒は唐人まげに白丈け長をかけ、銀製一インチ位の櫻花のかんざしの花瓣に、女子師範學校と彫つたものを學校の紀章としてさし、袴は瓦斯じまの大がらの藍じまを着用されました。

此本校敷地は、其當時現在の約三分の一で夫れは其隣に、男子師範學校(現今東京高等師範學校)がありまして、其後(年月不明)此男子師範學校

が、大塚に移されて其建物敷地は、全部現在の女子高等師範學校に併合せられ廣くなつたのです。

(現在の本校正門は昔時男子師範學校の正門で現在の通用門は昔時女子師範學校の正門なりし)

以上此校園も遠からず大塚に新築移轉せらるゝ事となり、此お茶の水の地に永久別るゝ事の惜別の情禁ずる能はず、爰に此校園に對し、思ひ出の記事をなす。

(三八頁よりつゞく)

を附けた遊戯の中にもあんなのが入つたらと思ふ。

新庄 ございますよ。

倉橋 もう此邊でも菓子を下さい。今日は少し僕がしゃべり過ぎたらしい。

堀 現在振つけの遊戯を子供に人氣投票して見ちや何う。

及川 子供ひとりづゝで書いてみませう。